学体連会報

発行日・昭和59年12月20日
東京都渋谷区代々木神園町3番1号
国立オリンピック記念青少年総合センター内
財団法人日本学校体育研究連合会
発行者　会長　大石　三四郎

「運動を楽しむ」という研究主題に対する全国学校体育研究大会での挨拶

会長　大石　三四郎

開会式における大石会長の挨拶

沖縄大会が終った。沖縄の方々に厚くお礼申し上げる。全国各県より集まった教員の熱波が今でも全身にピリピリ響いてくる。時間からいえば、ほんの短い瞬間とでもいいたいほどの間である。その間に、私は開会の挨拶を文部省澤田道也大臣官房審議官に続いてさせてもらった。それは「楽しむ」という言葉の意味であった。人間が独りで楽しむにしてもどうやって楽しんでいくかということであり、苦楽という言葉通り、楽しみには、その裏に苦というものがある。したがって、苦楽の変化の中に、自分を上手に調整していくことであり、苦におちいって、パニックを起こすようでも困るし、また楽しみに熱中して、自分の位置や姿を見失ってもいけない。理想としては苦と楽とが完全に一つのものになればよいのであろうけれども、そのようなことは、人間の仕業とは思えない。それは、人間を超越した神の姿でもあろう。そうなったらもう人間ではなく神様になってしまう。ただ、人として存在する限り、人は苦と楽のバランスの程よくほぐれた世界に止まらなければならない。この程よくモツレタリ、ホグレタリする状態に止まるという行動が、セルフコントロールというのであろうし、その動作の論理が「運動を楽しんだ」ということへの理屈となるのであろう。一般に、このことは程よく遊んで、程よく学べという言葉でいい表されていることでもある。ところが、この程よくということが具体的にはどうなるのであろうかというとムズカシイ。定量的にいえば苦楽の平均点の上、下から余り離れないようにしろということにでもなる。しかし、実際にこのことを体得することは非常に困難なことである。このムズカシサがあるからこそ、ここに、生徒に対する教師の指導が必要になるのである。

考えてみれば、楽しむことは個人としてだけではない。その個人の属する人間の集りとも関係する。したがって、個人の楽しむことと、集団の楽しむことの最適な場面を見出ださなければならない。

このように「運動を楽しむ」ことは、また個人だけでなく、集団とのかかわり合いがでてくる。この辺にも、教師の深い生徒たちへの観察と評価からする適当なコントロールがなければならない。まして、これが試合のようなかたちを取ってくると、教師と生徒の関係はますますムズカシクなる反面、これを上手にコントロールするすべ（術）を手にしたときは、教師も生徒もともにこよなく楽しい世界が生まれるのである。

こんなことを考えて、私は「個人での楽しみにはセルフコントロールが、集団との楽しみには、個人と集団とのバランスが必要であり、学校で運動を楽しむには、生徒の努力もさることながら、教師の強力なる指導が必要になる。」とご挨拶したのである。

広報活動の展望

学体連副会長・広報委員長
専修大学附属高等学校校長　　坂井田　逸　治

学体連の常務理事会の活動分担の中に広報委員会というのがある。全国大会の要項を早く知らせたり、支部や学校の活動、役員の動静、学体連事務局の活動状況なども知らせて、全組織に連帯性や活動意欲をもたせるのも広報的な仕事であると考えている。しかし、その後、考え方として、編集・広報の二つの組織が力を合わせ、高い水準の学問的かつ現場的な研究の紹介、著書、論文の紹介を含めた学体連会員諸氏の活動を載せるとともに、各支部間の交流のよすがになるものを取り上げて行くなども大切であると気付いた。広報活動では、今までにない分野が数多くあるので、委員の方々に相談して、そのような分野の開拓をしていきたいと思う。現代は、ニューメディアの時代、テレビ、ラジオなどの活用も大いに取り入れる必要がある。

文部省では、毎年何回か、主管課長会議、教育長会議が開かれている。このような会議の機会に要項をくばり、出席の方々のご諒解、ご認識を得ておくことは大変重要なことであると思う。

広報の仕事で、今後大いに取り上げるべきことは各支部の活動である。支部ごとの学体連ニュースを会報とは別個に出してはどうかとも考えられる。今すぐ出来るものではないから、将来の活動として実現化を図りたいものである。つぎに、会員の資質の向上のために、体育文化講演会というものを各地域（ブロック）で開催するのも新鮮味のある構想である。講師には、文化性の高い著名人にお願いをすることが必要である。この構想は全国の行政地域を順番に開いて行くというものである。つぎは、各支部の役員や会員の建設的発言を素直に伝えて、会の機運を盛り上げて行く考え方である。

広報の窓口は広く、その方法は多種、多様に考えられる。ここに取り上げたものは、何とか実行してみたいものである。

学校体育の課題

― 最近の気になる問題 ―

東京都立五日市高等学校校長　　佐　野　和　夫

社会も生徒も教師も変化している中で、最近の体育指導の場で気にかかる問題２点について述べることにする。

1.　基礎・基本の学習について再確認が必要

何事によらず、すべて基礎・基本が大事なのは自明の理である。社会の変化につれ、教育がどのように変っても、基礎となる生活習慣、基礎となる体力基礎知識は、変わるものではないはずである。

最近の状況をみると、学校生活という集団生活の上から、最も基本となるべき集団行動が十分行われていないようである。集団行動に対する指導は、若手教師になる程不得手のように思う。体操の指導についても、リズミカルで、力強い動作が要求されるが、節度と正確な運動の指導が十分になされないようである。このことは基礎がいかに大切であるかの理解が徹底できないため、生徒は全くいいかげんな動作で終らせて、早く楽しいゲームをと安易な考えに流されてしまう。

この指導を如何に正しく実践させるかは、指導者の力量を問われることにもなる。個人的、集団的スポーツ、格技、ダンスなどすべての内容について、基礎、基本を忘れた展開に流れることなく、生徒の興味本位な要求による授業展開にならぬ配慮を望みたい。

2.　教師は研修を積極的に行って欲しい。

体育科の中でも教師の専門性がある。このことは大きな特色であって、優れた特技を持つことは、生徒から信頼され、自信となって大へんよいことである。体育指導者としては、できるだけ多くの内容について精通すると同時に指導すべきである。「私は専門にやったことしかできません」は、学校教育の場では許されない。しかし現実にはこのような体育教師は増えているのではないかと思われる。

先ず、自分の現場でのお互いの研修をはじめ、教委、大学、あるいはスポーツ団体の主催する研修会や研究会に積極的に参加して研鑽を積むことが、教師としての基本姿勢である。高校教師は多忙を理由に研修に消極的という声を聞くが残念である。

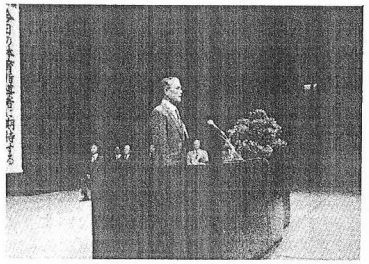
沖縄大会の意義　そのひとつ

学体連　事務局長　　重　田　　一

昭和59年11月15・16日、第23回全国学校体育研究大会が、沖縄県で開催された。九州大会の当番県としての沖縄県が、全国大会にこれを包含し、沖縄らしい大会にしたいと、その独自性を標榜して、立派にそれを貫き通したことは、誠に嬉しい。

昭和57年10月、新潟大会時の理事・評議員会は、学体連事務局に対し、「59年度の開催県を速かに決定するよう、一層の努力をして貰いたい。」と要望した。これを受けてからも、幾つかの県に当ったが駄目。沖縄しかない！

沖縄県が幅広く考えた結果、断行しようと思い直して下さったのが58年1月。涙が出る程嬉しかった。立派に終った今、沖縄県としての意義も色々あろうが、学体連としては、欠番にならずに続くことが、何とも申しようのない有難さなのである。



開会のことば
沖縄県実行委員会副会長　　中村正徳先生

全体会場での受付風景

分科会会場をめぐって

学体連　理事長　　新　村　正　雄
常務理事　　浅　田　隆　夫
同　　江　田　昌　佑
同　　大　迫　典　男
幹　事　　伊　藤　忠　一

かなりのレポートを圧縮して載せるのは不本意だが、お許しねがいたい。

浦添市立浦城幼稚園。授業終了後の懇談では、本州より沖縄の方が幼児教育に熱心である。長くアメリカの統治下にあったので。本土復帰後、組織的にも進み、父母が大変熱心である。ただ、民間の幼稚園はかなり長い時間子どもを預るのに対し、公立小学校併設の幼稚園は、預る時間が決まっているので、子どもが民間の方にとられる傾向が出て来ている。

浦添市立港川小学校。4年の表現運動。体育館の側壁には探検のイメージを自由に表出した子ども達の絵、内発的動機の強化をねらったものか。動き盛りの年令の子どもにこの種の表現運動、運動量はいかがなものだろうか。

那覇市立寄宮中学校。バスケットを楽しむ指導。集団技能と個人技能、楽しめるバスケットゲームのための工夫（リングの大きさ、高さ、3秒ルール等）さらにリーダーを育て、チームづくりの推進などに質疑が集中していた。

浦添市立神森中学校。器械運動や陸上競技を楽しむ学習の指導。生徒の学習態度、生活態度は抜群、指導者の日頃の指導の充実ぶりが発揮され、すばら

しい効果があった。

那覇市立安岡中学校、県立浦添高等学校。ダンス領域における種目選択による学習の指導。創作ダンス中心の従来の学校ダンスに、フォークダンス、リズムダンス、郷土の踊りを選択制で学習させるという新しい試みが提起され、活発に論議されていた。

県立鏡ケ丘養護学校。バスケットボール。口にふわふわボールをくわえてドリブルする子、両手でからだを支えてすばやく移動する下肢切断の子、ゴール下で教師にからだを支えられながら座ってシュートのチャンスを待っている子。障害の程度が異る肢体不自由の子ども達が、協力しながらルールに従ってバスケットボールをゲームする。不可能を可能にした教師の熱意と子ども達の努力。正に感動の１時間である。運動場ではサッカー。腕でしかボールを操作できない生徒が沢山いるというのに、何故サッカーなのだろう。体育館で、腕を使ってのサッカーにしたらどうだろう。本当は、三面もある立派なプールを使っての水泳の授業を見せて戴きたかったのである。

〈参加者の声〉 一人ひとりが喜んで器械運動に取り組む学習の指導はどのようにすればよいか

— 第３分科会・器械運動　沖縄県那覇市立仲井真小学校 —

宮城教育大学助教授　洞　口　六　夫

1.　マット運動と平均台遊び（１年２組）

施設用具の設定、パネル等の教具の配置などいろいろ工夫されており、１年生のマット運動、平均台あそびとしては、子どもたちが積極的に参加した活動内容だったように思われる。

教具として、パネルによく図解されているが、このパネルの図解を参考にしている子どもを１人もみなかった。云うなれば、研究授業のために教師が用意したものを、子どもは全く活用していないのである。特に、技能の劣る子どもが活用するのかとも思ったが、殆んど見ていないようである。講師は、教具、用具の設定が指導なのだとはいうがどうも実質的ではないように思う。指導場面としてこの教具が使用されれば、この授業もよかったと思う。

2.　とび箱運動（５年５組）

特にとび箱運動における恐怖心に対する配慮、危険性に対する指導法等などが十分でないように思われた。

沖縄大会に参加して

栃木県安蘇郡田沼町立西中学校教諭　神　山　　学

私は、沖縄の暖かい気候に驚くとともに、その恵まれた環境で運動できる沖縄の生徒をうらやましく思いながら、第８分科会に参加した。

ここでは、「みんながバレーボールやサッカーを楽しむ学習の指導はどうすればよいか」の主題で公開授業及び研究発表が行われた。

公開授業では、生徒の立場に立って特性をとらえるとともに、発達段階を考慮して指導計画が立てられているので、生徒が自主的に活動している姿がよく見られた。

特にバレーボールの授業においてはゲームを中心に授業が組み立てられ、そのゲームに親しめるように、ルールが平易に作ってあり、一人一人がほんとうに楽しく生き生きと活動していた。

また、研究発表では、一人一人に楽しさを味わわせるため、グループ学習を中心に練習させることによって、自主的に学習できるようになり、興味、関心も高まるのではないかと提案があり、そのため、学習過程の工夫とグループつくりの研究をあげられた。

その学習過程では、学習することを理解して、個人やグループの課題を決め、課題解決のための練習を考えて実践し、それを生かしたゲームを行い、最後にまとめるパターンであった。

これは、私の学校で自主的なグループ活動を通して、体力つくりに取り組んでいるが、その学習パターンと似かよっていた。大会終了後、自分たちで実践していることが、的はずれでなく、誰もが考える方向で進んでいることが確認され、小さな自信が湧いてきた。

沖縄大会に参加して

岡山県小学校体育連盟理事長
岡山県岡山市立御野小学校教諭　高　垣　明　彦

◦大会主題を受けて、生涯スポーツを志向した学校体育のあり方を追求しようとするところに焦点をあてようとしていたが、幼・小・中・高と各学校段階のより綿密な関連をめざし、体育の今日的な課題をふまえたとらえ方であったと思う。幼・小・中・高と各段階を通しての研究実践の発表は他にあまり例がないので、今後の積み重ねが何より重要だと感じた。

◦この度の大会では、「楽しさ」を味わうこととは「運動の特性にふれること」と明快にすじ通しをしようとしていた。このことは、非常にすっきりしているように思える反面、正直なところ、小学校段階でみたかぎりにおいては、不自然さがあるように思えた。大会第２日目に、仲井真小学校での授業公開を参観したが、授業の各場面で生き生きと活動していた子どもは、試技するたびに顔を見合わせる、うなずき合う、声をかけ合う、教え合うといった姿をくり返し見せていた。このことは、授業者の授業設計の意図としても随所にうかがうことができた。つまり、特性にふれて楽しさを味わうためには、仲間とのふれあい、かかわり合いが明確に位置づけられるべきではないかと考えたわけです。

◦沖縄は文化財の宝庫ということで、伝統的な文化財の教材化に取り組んでいたが、とてもユニークで興味深かった。教材として、学ぶ価値のある文化財を学ぶ者の立場から見直してとらえ直す試みは、沖縄ならではの感が深かった。

◦小学校期の体育学習を「生涯体育への準備」でなく、「生涯体育の一コマ」と位置づけていたのは全く同感であった。運動を方法的にとらえるのでなく、目的的にとらえて、楽しさにふれることから、自発的な取り組みへという流れが生涯体育につながると考えられるからである。

鹿児島大会の課題

鹿児島県学校体育研究連合会会長
鹿児島県立錦江湾高等学校校長　沖　久　教　夫

昭和60年度本県で開催される第24回全国学校体育研究大会は、次の２つを主なねらいとする。

◦　一人ひとりの児童生徒が、生涯を通して運動に親しみ、健康の増進と体力の向上を図り、強健な心身を培うとともに、明るく豊かで活力に満ちた生活を営む能力や態度を育成する。

◦　学校体育研究団体の組織の強化・機能化を図るとともに、指導者の資質の向上を図る。

大会の研究主題を、次のように設定した。

「生涯体育を指向し、豊かな人間性を育成する学習指導のあり方。」

大会は、全体会と５つの部会に分かれ、それぞれの部会に、幼稚園１、小学校６、中学校４、高等学校３、盲・聾・養護学校１、合計１５の分科会を設定することにしている。

本県では、400年来の歴史と伝統を有する薩摩独特の郷中教育の中に見られる「山坂達者」体力・気力つくりを、学校教育実践の大きな柱として来た。４年前から県教育委員会指導の下に、公立諸学校のうち、毎年108校が２年間の「山坂達者」実践推進校としての指定を受け、施設設備の整備と併せて、学校体育に関する研究実践に全県的に取り組んでいるところである。昭和60年度の鹿児島大会は、本県における学校体育指導がさらに発展する絶好の機会であると同時に、学校体育指導の真価を問われる試練の機会でもあると受けとめている。

次期鹿児島大会に向けて、本県では、郷土に根ざす伝統的な教育の良さを現在に生かした学校体育指導のあり方について、大会研究主題に基づき精一杯の取り組みを進めて参りたい。

沖縄大会を終って

沖縄県学校体育研究連合会会長
沖縄女子短期大学附属高等学校校長　　中　村　正　徳

昭和59年度第23回全国学校体育研究大会（沖縄大会）を九州地区学校体育研究大会も併せて盛会裡に終了することができまして誠に嬉しく思います。御参加を賜わりました全国の皆様方に厚く御礼を申し上げます。昭和57年5月に沖縄開催の打診を受けて昭和58年3月に承諾を決定して以来、日本学体連の大石会長を初め事務局の御懇切なる御助言と文部省の御指導をいただき、そして九州地区学校体育研究連絡協議会の御理解と協力や沖縄県教育委員会の全面的な援助協力と関係団体の深い御理解等のおかげで、沖縄大会を大過なく運営し終了することができました。心から感謝を申し上げます。なお若干の点につきまして先生方の御期待にそうことができなかった事に就きましては御容赦下さい。

“生涯スポーツを志向し、運動の特性に基づく楽しさを味わうための学習指導はどうすればよいか”を主題としたこの研究大会は、本県の学校体育指導をより充実向上させていく上に大きな刺激を与えてくれたものと確信致します。全国の先生方の御意見や御助言を承わり、これからの体育学習指導の実践に役立てていかねばならないと思います。

国民の平均寿命ののびと生涯スポーツの志向は年間医療費が14兆円という現実と考えあわせてみるとき、健康保持と体力つくりの習慣化が如何に大切なことであるかを痛感致します。

終りに日本学体連の益々の御発展を祈念して感謝と御礼の言葉といたします。誠に有難うございました。

―学校体育振興会レポート―

学生体育衣料における「快適性の追求」

明石被服興業株式会社
取締役社長　　河　合　正　照

最近のスポーツウェアにおける「快適性」の研究成果にはめざましいものがあり、学生体育衣料についても、さまざまな面からの研究がなされてきています。

当社では、学生体育衣料に要求される多くの要因のなかから、特に5つの要因をとりあげ、重要課題として研究をすすめています。

人間工学的な面から、運動機能性（動きやすさの追求）生理学的な面から、運動時における汗の問題として、衣服内気候＊（汗をたっぷり吸い、すばやく発散させる機能を持った素材の開発）があり、さらに学生体育衣料として忘れてはならない要因として、耐久性（耐洗濯性、ピリング、スナッギングの問題）、健康・衛生・安全性の問題、それに経済性（価格の問題）があります。

当社では学生体育衣料（トレーニング　ウェア）として、新らしく衣服内気候にすぐれた、汗の吸・発散素材「アルザス」を採用、展開を始めています。

「アルザス」は他の多くの要因を満たすだけでなく、特に汗の吸・発散にすぐれ、運動時におけるムレ感、運動休止時の冷え感を少なくするという、衣服内気候をたえず快適にたもつ機能があります。

さらに当社では、今後学生体育衣料における「快適性」を課題にさまざまな角度から、総合的に取り組んでいかなければと考えています。

＊衣服内気候……人体と衣服の間で形成される空間の温度、湿度、気流の関係で、温度32±1度、湿度50±10％、気流25±15㎝／秒が衣服内気候における「快適域」とされています。

私のすすめる本

学体連　常務理事
東京都小学校体育研究会会長
東京都新宿区立戸塚第二小学校校長　　岡　野　伊與次

小学生の運動指導－とくに遅れた子の伸ばし方－
運動遅滞研究会編　　同文書院

本来、子供は能動的であり、絶えず動くことが好きである。各種の調査等を見ても体育が全く嫌いであるという子供は割合少ない。運動がうまくいかなかったり、下手だったりすると運動嫌いになる傾向がある。また、指導者や親の影響によって、体育嫌いの運動好き、その反対に体育は好きだけれども運動は嫌いといったような現象が生まれてくる。

そうした、運動に対する遅滞児が生じる原因や運動処法等について、各種の調査から具体的な対策が述べられているのが本書である。

本書は第1章から第5章までの構成で、1章では運動遅滞となる原因について理論的に解説されている。2章及び3章では、運動遅滞の診断テストについて各種の方法により科学的に分析されている。また、子供達の基本的な運動の仕方について遅滞現象がどのようになっているか診断と処方について解説されている。4章では、環境・教育と運動遅滞との関係について詳細に例を挙げて述べられている。特に、心身に障害を持つ子の訓練について初歩的な段階からその指導の在り方が解説され、教育現場としては参考になるのではないかと思われる。

5章では、運動遅滞における各種のパターンについての診断とその対策について解説されている。運動嫌いや意欲の喪失についての親や指導者の立場からどのように対処したらよいか等、具体的な事例をあげて論述されている。

要するに、運動の仕方等については個人差があるが、いずれも統合的な視野に立って考え、長い目で発達状態を観察しながら、運動遅滞を解消することが必要であると解説されている。

事務局だより

1. 全国大会開催県
   (1) 昭和59年度　沖縄県　第23回
   (2) 昭和60年度　鹿児島県　第24回
   (3) 昭和61年度　兵庫県　第25回
   (4) 昭和62年度　宮城県　第26回
   (5) 昭和63年度　東海・北陸・近畿地区内の県
2. 明年度　学体連主催の研修会
   全国学校体育実技研修会
   1 運動遊びの部（幼稚園）
   (1) テーマ　楽しい運動遊びの指導のポイント
   (2) 内　容　ア．幼稚園における運動遊びの意義
   イ．幼稚園における運動遊びの指導
   ウ．研究討議
   (3) 講　師　近藤充夫　東京学芸大学教授
   松原要子　東戸山幼稚園園長
   小林美実　宝仙短期大学教授
   中西雄俊　日本女子体育短大講師
   (4) 期　日　8月27日（火）28日（水）
   (5) 会　場　都内
   (6) 参加費　¥4,000（予定）
   2 小学校の部　　都小体研と共催
   (1) テーマ　学習課題達成の喜びを体得させる体育指導の評価
   (2) 内　容　ア．各運動領域の特性をおさえた体育指導のポイント　イ．各運動領域における発達段階に応じた評価のポイント
   (3) 講　師　大学教授、助教授
   指導主事、研究団体の教員
   (4) 期　日　8月29日（木）30日（金）
   (5) 会　場　都内の小学校
   (6) 参加費　¥4,000（予定）
3. 学体連会報

年に2回、1回に41,000部つくり、各都道府県の加盟団体事務局に送っている。全国の公立小・中・高等学校に1部は届くようにと思って作っている。11月15日、沖縄大会の第一日目が終ったあとの、都道府県代表者会議に参加した先生方に、会報を見たことがあるかと伺ったら、概算70～80％がある方に手を挙げてくれた。漏れている所もあるようだ。なぜだろう？

会報関係のご意見を、どしどし事務局にお寄せ下さい。

祝 歓 迎！

昭和60年度

第24回 全国学校体育研究大会

（鹿児島大会）

期　日：昭和60年11月14日㈭ 15日㈮
開催地：鹿児島市，指宿市，川内市，加治木町，姶良町

このたび当社は，大会実行委員会の御指導のもとに，皆様のお世話をさせていただくことになりました。

大会御出席の航空機，御宿泊，研修旅行等の御案内を，全国230の営業所ネットワークを通じて行います。

皆様の御来鹿をお待ち申しあげます。

運輸大臣登録一般旅行業第20号
近畿日本ツーリスト　鹿児島営業所　〒892 鹿児島市西千石町17-27 TEL(0992)23-3201

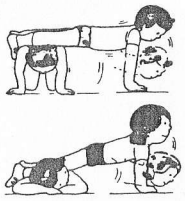
●運動がニガテな子、キライな子の指導法（本邦初）

小学生の運動指導

●とくに遅れた子の伸ばし方●

運動遅滞研究会編　一六〇〇円

日本体育学会副会長
松田岩男先生推薦



本書は最近急増している運動がキライな子ニガテな子の実態調査研究を通して、身体の協応性、敏捷性、筋持久力、平衡性、生活能力など、様様な要素を47種の診断テストで診断し、それに対応した具体的な運動処方の指導方法を詳述した待望の書。

●本邦初！小児のことならなんでもわかる事典！斯界絶賛

小児の保健と教育の事典

日本小児保健協会編
B6判 二〇〇円

小児の保健を中心に、各分野の第一人者二〇〇名が執筆、基本項目から最新の問題事項まで網羅し、文字通り小児に関するあらゆる項目二七〇〇項目を収録。朝日新聞もユニークな事典と激賞。

●専門の立場から非行の芽は必ず治せると提言！

思春期非行

科学警察研究所 教育学博士
小宮山 要 著
B6判 九八〇円

非行の入口でさまよっている思春期の少年少女の多数の実例を通して、非行の最前線で日々研究している著者の立場からその心の内面に立ち至って原因を解明！非行の芽は完全に治せると指導する。

同文書院　〒160 東京／新宿／若葉1　振東0-1316　☎359-9671